

《自由記述欄》

この2年間、会員ひとりひとりが出会えたご縁を繋げられる場を作ることを意識しながら、創意工夫を凝らして、テーマに向かって前のめりに活動をしてきました。以下で、その活動にどのような意義や目的があったのかを記します。

わたしたちは、コロナ禍においても【会員の増加や組織の充実・発展】に取り組みました。具体的な内容として、2点あります。

まず、1点目として、石川南青年部に「家」でも「会社」でも「学校」でもないサードプレイスとしての居場所をつくるためにもまずは安心できる空間づくりに取り組みました。新年総会前、新体制になると同時に、役員を紹介動画を作成し、「どういった人たちが青年部にいるのか」ということがわかるように顔がみえる組織づくりをしました。また青年部とはどういう組織で、どういった活動をしているか、など、コロナ禍で入会された会員さんにもわかるように作成した動画2本を、石川南青年部で配信しました。

2点目としては、石川南青年部が会員でありたい、その価値を見出せる組織であるためにも「活動の充実」に取り組みました。月に1度は委員長会議、そして青年部行事を必ず行うことでタイミングのいい時に参加できる機会を増やす努力をしました。その結果、回を重ねるごとに、行事参加者が増え、1年目の12月に行った「納会」では、その年初めてのオフライン行事であったにもかかわらず、青年部会員とご家族総勢28名が揃われました。行事に参加しやすい環境を整えることや、新入会員へのケアは今後も継続して行なっていきます。この取り組みもあってか、このコロナ禍で1人会員が増えました。



↑ 令和3年度の納会の様子

↓ 令和3年度の三役紹介動画抜粋



三役紹介動画2021-2022
© 龍定公館

また、【青年茶人や青年部会員としての資質の向上、リーダー育成】にも取り組みました。

北陸信越ブロックでは、2年に一度研修チームがたちあがります。昨年、石川南青年部からも2名参加しており、うち1名は委員長として、委員会メンバーひとりひとりにコンタクトをまめにとることで、これまで行事に参加していなかった会員さんが来られる、というような変化もありました。

さらに、北陸信越ブロック内での青年部交流も活発に行われ、ブロック内の他青年部からの行事参加を促すことができました。結果として、2年目の8月の石川県加賀市の「大土町・七夕の集い」

では、交通の便があまりよくない会場にもかかわらず、他県から5名の参加者に足を運んでいただきました。

また組織運営をする上で、委員長に「次期リーダーの育成」を見越していただき、後任を育てる気持ちで活動していただけただけのため、来期の新しい役員が潤滑に決定したことも大きな成果です。



←高岡青年部のみなさまと一緒に

3番目の【茶道を通じた地域社会、或いは国際社会への貢献】にも、この2年間取り組んできました。具体的な活動として3点挙げられます。

1点目としては、継続して行なっている「子供茶道教室」です。コロナ禍においても工夫を凝らし、毎年楽しみにしておられるこどもたちのために2年連続の開催を成功させました。参加人数はそれぞれ令和3年70名、令和4年47名でした。（※令和3年は、コロナ対策で短時間で終わる体験・呈茶なしとした為、1日の開催回数が令和4年より多かったため、人数に差があります。）

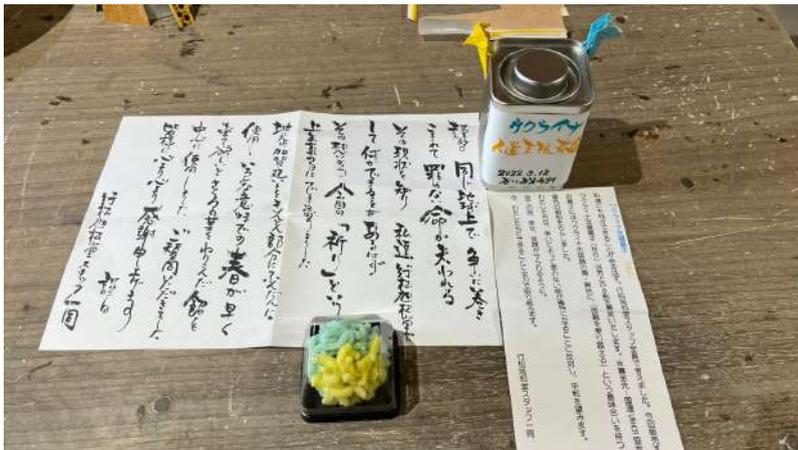
この開催にあたって、地元の新施設である九谷セラミックラボラトリーの方々と密な連携をとることで、開催ができました。施設の方からも、「まだまだ新しい施設ということで、認知が広がりありがたい」というお声もいただきました。この地域に根付く伝統工芸のよさを伝える施設との連携は、おのずとこの地の伝統工芸を守り伝えることにつながります。これからも、伝統工芸と茶道に愛着のわく「子供茶道教室」を開催していきます。

2点目としては、先にもあげました石川県加賀市の「大土町・七夕の集い」です。現在、住民が一人の限界集落、重要伝統的建造物保存地区群の石川県加賀市山中温泉大土町。この地の唯一の住人である二枚田昇さんとのご縁で、限界集落であるけれども美しい自然と景観を残すこのまちを盛り上げるための「七夕茶会」を企画しました。当日までの準備で、二枚田さんの口から直接、大土町やこの地の歴史、自然に耳を傾けることができ、青年部会員にとっても学び多い時間となりました。結果として、山奥であるにもかかわらず、青年部会員15名、県外の青年部から5名、そして大土町に縁のある近隣住民の方15名、総勢35名で冷たい冷茶を楽しみ、大土の笹に短冊をかざり、わきあいあいと過ごす素敵な時間となりました。今後も限界集落の大土町を盛り上げ、この美しさを茶道の力で外にひろげていく活動を続けていきたいです。



↑ 子供茶道教室の様子
←重要伝統的建造物保存地区群・大土町を
参加者で散策

最後に、今年の春に行われた青年部行事「茶箱への道」の際に、ウクライナへの支援菓子「祈り」を行松旭松堂に依頼しました。この上生菓子1つ356円のうちの300円をUNHCRに募金されているということで、人数分の和菓子を注文しました。茶道の文化、和菓子の文化を通して、ウクライナで過ごし、またそのあと国を離れることになったひとたちを思い、募金を募りました。さらに、行事の時間の中でも募金を募ったり、参加した子供達と鶴を折り、募金箱を飾ることで、「平和」や「世界の出来事」について考える時間も設けることができました。



←「祈り」のお菓子と募金箱

また、4番目の【親支部との連携】にも取り組みました。令和3年度、コロナ禍の中での総会にも、岩谷宗久前幹事長先生、村本宗由先生が、ZOOMを使ってご来席されました。ZOOMの使い方に関して、社中の青年部会員からのコミュニケーションを通して会議にご参加いただけました。加えて、令和3年度、4年度と石川南支部の幹事長先生が役職をお譲りされたということもあり、新たな幹事長先生との関係構築にもつとめました。

令和4年度の春の青年部行事「茶箱への道」や夏の「こども茶道教室」には西田幹事長先生が出席され、青年部会員との交流を深める場を設けることができました。また、同じく夏の支部茶会である「七夕茶会」にも誘導としてお手伝いさせていただき、先生方との交流を深めることができました。

また、令和4年8月には、親支部の先生方とともに仙叟屋敷の月釜「微妙会」を懸けさせていただきました。1991年3月17日発足から、今年で石川南支部と石川南青年部の親子30周年の節目となります。

この8月の微妙会を支部の育成委員会の先生方と一緒に釜をかけさせていただけるということで、「親子」関係に注目したお道具組、また周年のお祝いとして「おめでたい」お道具組をして、お席を明るくさせていただきました。先生方からたくさんの学びを頂戴しました。今後さらに精進していきたいと強くおもうとともに、親先生とのつながりの大切さを実感しました。



←七夕茶会誘導、笑顔で♥

5番目の【学校茶道との連携】に関しては、取り組みと成果として2点挙げられます。1点目としては、「子供茶道教室」の連続開催です。今回で5年目となります。毎年、学校茶道の先生方との連携、そして先生方のご協力のおかげで開催ができています。今年も総勢47名参加され、お茶のいただき方とともに、伝統工芸に触れる、そして形作る「お茶碗づくり」をおこないました。

2点目として、近隣の大学との連携です。北陸先端大学大学院の茶道部の部員の皆様との繋がりが、コロナが落ち着いた今年からようやくまた実現しています。夏の「子供茶道教室」にも総勢6名のみなさまが参加され、青年部会員との交流、また地域のこどもたちとの交流を行いました。大学院生の方からは「青年部とはどういう集まりであるか知らなかったので、行事に参加できてよかった」「また次回、ぜひお誘いいただいて繋がっていききたい」という嬉しいお声をいただきました。

6番目の【他ブロック・青年部との交流】に関しても、コロナ禍ではあるものの、役員だけでなく会員が広い視野でお茶のつながりをもとめて活動ができました。

1点目としては、先にあげた石川県加賀市の「大土町・七夕の集い」では、交通の便があまりよくない会場にもかかわらず、北陸信越ブロック内他県から5名の参加者に足を運んでいただきました。その中で、今回の青年部行事に関して「石川南青年部は親子で参加できる行事や参加しやすい空間であることがいい」というお言葉も頂戴し、外部の方々からのお声であらためて気付かされることも多かったです。

2点目としては、1年目に行なった青年部行事「全国抹茶めぐり」において、北九州青年部の会員の方とコラボして行事をたちあげることができました。北九州青年部の方には、オンラインでの北

九州の港ツアーもしていただき、全国にお茶を愛好する仲間がいることを会員が実感し、また各地域の良さがあること、それを魅せていくことの大切さを肌で感じることができました。

3点目としては、他のブロック研修会への参加です。今年7月の関東第一ブロックの研修会では現地にまで足を運んだ会員(役員ではなく今年1年目)が1名、8月の中部中国ブロックのブロック研修会へはオンライン参加で1名、と積極的な参加がみられました。全国にお茶の仲間たちがいることを、会員一人一人ができるだけ肌で感じ場をこちらからも企画していきたいと改めて感じました。



←学生と親先生と講師の先生と♥

7番目の【ITの活用、活発な広報活動】についても、会員それぞれのスキルを生かして取り組みました。

まず、1年目よりGoogleドライブの活用を行いました。コロナ禍で資料の受け渡し等も難しくなる中で、ドライブの中での資料共有、さらには協力して資料作成を行うことで、負担の分担やダブルチェックも役員で行うことができました。またこの活用によって、すぐに、資料検索もでき、効率的に資料作成が行えたことで、役員の負担も軽減できました。

2点目として、ZOOMの活用です。こちらは1年目の1月から開始。総会のオンライン開催に向けても、事前に先生方や会員のみなさまに説明する機会をつくり疑問点の解消に努め、コロナ禍でのオンライン行事を精力的に行うことを念頭に置き、活動をはじめました。その結果、総会はまだまだ定着していない1年目のオンライン開催でも31名(青年部29名、親支部2名)のみなさまにご参加いただけました。

また、ZOOMのオンライン行事に慣れていくこと、そして何より、気軽に参加できるというオンラインの良さを生かすことの重要性を考え、月に1度の「オンライン茶楽」を企画し、令和3年途切れることなく開催を行うことができました。この企画では、会員のアイデア募集で、次の月のテーマを決めるなど主体的に楽しむことができる行事になるよう意識しました。結果として、企画を考える楽しさや、主体的に青年部活動をする魅力を感じる時間にできたことで、この茶楽の参加者の大半が、来期の新役員に立候補しました。

3点目として、動画やデザイン性の高いフライヤーによる青年部行事の告知と報告です。直接会えない時間が続くことで心が離れていく、それでも「ワクワク」する気持ちを繋いでおきたい、その一心で取り組みました。文章を超えるデザインや動画は、目を惹き、心惹かれるものがあります。石川南青年部では、大半の青年部行事において、メールでの案内、LINEでの案内にくわえて、

Canvaによるフライヤーの作成によって、一目でわかる行事案内を行いました。結果、参加人数に伸びがない場合、そのフライヤーを流すことで参加者の増加を促すことができました。

また、行事告知にかんしても、映画予告のような動画を作成し、参加者を募りました。またその行事に参加できなかった人も、当日の様子を見ることができるショートムービーの作成と共有によって、「次回は参加してみよう」と思えたという声もありました。



(左)オンライン茶楽の様子 (右)全国抹茶めぐりの様子

以上が申請項目7点について、わたしたち石川南青年部が活動してきた軌跡です。この2年間、コロナ禍、その波に翻弄され、難しい選択を迫られることも少なからずありました。2年間が順風満帆であったか、といわれるとももちろんそうではないのですが、だからこそ、この状況で会員ひとりひとりが創意工夫をみんなで繋がり、「石川南青年部」をつくっていく、そういう姿勢でのぞめた2年間でした。先輩方が残してくださった「ワクワクする気持ちの大切さ」や「仲間愛」、そしてなにより「お茶を大好きに思い、全力で楽しむところ」のおかげで、今日のわたしたちの活動があります。会員一人一人の活躍と石川南青年部を想う気持ち、絆が、この2年間の取り組みにつながりました。

この2年間の成功体験、そして今後のチャレンジに関しても前向きに、前のめりに取り組んでいきます。